

序 文

「研究のうごき 第9号」をお届けします。今回は、私ども中央水産研究所が平成22年度に行った研究開発の中から主なものを選んでご紹介しています。

わが国を代表する総合的な水産研究機関である水産総合研究センターの中にあつて、中央水産研究所は「水産業の安定的な経営と水産資源の持続的な利用」、「漁場環境の保全と海洋生態系の変動予測」、「水産物の安全性の確保や信頼性の向上」、「水産生物の遺伝的特性の解明と応用」

など、水産総合研究センター全体に共通する基盤的な研究開発を担っています。その一方で、千葉県から宮崎県にいたる黒潮域の水産資源と漁場環境に関する調査研究も担当しています。

この「研究のうごき 第9号」では、こうした当研究所の取り組みをご理解いただけるようテーマを選択してみました。また、執筆にあたっては、日頃水産や海洋の調査研究に馴染みの少ない皆様にも、研究開発の内容や成果を直感的にとらえていただけるよう、文章や用語の使い方、構成などを工夫してみました。しかしながら、意を尽くしていないところも多く、皆様からのご叱声をいただいて一層の改善を図って参りたいと考えております。

また、3月11日に発生した東日本大震災では東北地方の水産業が大打撃を受け、水産関係者を含め、多くの方々が今なお困難な日々を送っておられます。当研究所も、水産総合研究センターの他の研究所、地元の研究機関や漁業者の皆様と連携しつつ、東北地方の水産業の復興・再生に向けて研究開発の側面からのお手伝いに取り組んでおります。今後、こうした取り組みについても、順次ご紹介していければと考えております。

今後とも、私ども中央水産研究所の研究開発に対する皆様のご理解、ご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成23年9月

独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所 所長 和田 時夫